



## 雲の海

二村 有音

テンペラ、油絵具、和紙、キャンバス

この作品は、氷を使って描かれています。

私が氷を使うようになったのは、一昨年冬、度々訪れる森の池に、氷が張っているのを見つけ、絵具を使って遊んだことがきっかけです。氷の上に絵具で描くと、氷が溶けて目の前で絵具が動き出し、美しい景色が生まれることに、私は感動しました。

その後、氷と絵具が生み出す美しい景色を追い求めて、この作品が生まれました。

氷と向き合ううちに、いつしか氷に適した絵具を自分で作り、また、私自身の筆跡も氷と調和するようになり、氷が生み出す景色を、ありありと留められるようになってきました。

氷の色彩を留めるために使うのは、厳選した和紙です。

その和紙を、表具の技法を使ってキャンバスに貼り付け、最後に色彩が鮮明に出るよう油絵具でコーティングをして、作品にしています。

私にとって氷に描くことは、自然の作用によって表現をする手段です。私が自然と対話して、自分と自然の調和を表現し見えた景色を伝えることで、自然とつながることへの希望を描こうとしています。

それは個人にとどまらずに、今私たちが、過剰な情報に身を浸し、コロナ終焉後も時に息苦しさをと感じ続ける社会を生き抜く中に、忘れがちな自然とのつながりを呼び起こす試みでもあります。